

第5回 令和7年4月18日（金）

「判断について。」

大切な試合。ここでパスをしようか、シュートをしようか、判断をしなくちゃいけない…。

サッカーの日本代表の試合でもよく見られる光景で、決定的なチャンスでシュートを選択せずにパスをする。

もちろんパスが正解の場合もありますが、このような考えが頭をよぎることがありませんか？

「もし大事なシュートをはずしてしまったらどうしよう…」

最近海外でも日本の選手が活躍するようになった大きな理由がここにあると思います。最近のサッカー日本代表やバスケの河村選手は失敗を恐れずどんどんチャレンジしますよね。

昔の選手は決定的なシュートを外すと指導者から「何やってるんだ！！」と怒られました。

罰として走らされたり、昭和の時代には体罰を受けることもありました。（私も経験しました。）

結果として大事な場面で頭の中に悪いイメージが生まれてしまいます。「失敗したらどうしよう…」

良い指導者は結果で選手を責めません。もちろん結果を見て選手を起用しますから、出場機会が減ることはありますが、その選手を起用したことを含め、結果はすべて指導者に責任があります。

「勝ったのは選手のおかげ。負けたのは監督の責任。」ということばがありますが、プレイヤーは勝とうとして全力を尽くしている以上、ネガティブな思考で判断を歪めてはいけないし、日ごろからそのような場面を作らないよう、指導者は結果論で選手を責めず、選択肢でアドバイスすることが大事です。

「どうしてあそこでバントしないんだよ」とか、プロ野球を見ていてお酒を飲みながら結果論をつぶやいている大人がいます。これは指導者ではないので悪いことではありませんが、後から言うのは簡単です。

みなさんもリーダーになれば部下の判断に怒りたくなる時もあると思います。でもそこで怒ると、次は大事な仕事を自分でやらないでパスを選択するようになります。

判断ミスはリーダーの責任も大きいということを覚えておきましょう。